



中野 英治氏 撮影



彦島八幡宮社報  
第 59 号

**八幡宮からのお知らせ**

どんど焼き **1月16日(土・先負)** 午前10時頃 忌火火入式

※荒天の場合は **1月17日(日)** に順延します。

正月飾りは、みかん・橙(だいだい)を外してご持参下さい。  
執行後は来年まで受付致しませんので、予めご了承下さい。

①鏡餅・ビニール袋・結納品・人形・仏具・民芸品等は  
一切お断り致します。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、ふるまい行事は中止します。



**八幡宮からのお知らせ**

謹んで清々しい新年のお慶びを申し上げます。

さて、科学の基本は、「知っていること」と「知らないこと」を厳しく区別することだそう。宇宙の物質の二割強、エネルギーの七割強は未知なのだそう。当然ですが、人間は全知ではなく、現在の新型コロナウイルス感染症の拡大もわかりですが、すべてを制御(せいぎよ)することは不可能です。そうであるならば、もつと謙虚に、生態系の一部であることをはつきりと意識をして、行動も慎重であるべきではないでしょうか。そして、未知なるものへの、「畏敬(いけい)」「恐れ」「敬い」のミックスした心である、「畏(かしこみ)」という思いを大切にしなければなりません。その思いこそが、穏やかな暮らしを祈る、敬神生活につながっていくのだと思います。コロナウイルス禍で、新しい生活様式を余儀(よぎ)なくされています。しかしながら、古来日本人が大切にしてきた「敬神崇祖(けいしんすうそ)」、神を敬い祖先を尊ぶ心がけは、けっして変えてはいけないと思います。

私は、数年前から敬神生活の心がけの提唱を始めました。当初は、「四K」さらに、「四KプラスR」と進化させ、ついに「OとY」を加えて、「四KプラスROY」の新しい敬神生活を提唱させていただきます。今ある命に心から感謝をし、謙虚に自分を見つめ直し、未来に希望を持ち続け、工夫をしながら生活する、「感謝 謙虚 希望 工夫の四K」です。そして利他(りた) 思いやりの心で、落ち着いて、ゆとりを持って、生活する、「利他R」「落ち着きO」「ゆとりY」の「ROY」であります。

さらに、「ROY」の生活を確立するために不可欠なのが、大切な家族や身近な人々のつながりであるかと思えます。そのかけがえのない「つながり」のなかで「和み」つつ「癒され」ながら、そして「安らぐ」ことこそ、「日々是好日」の暮らしではないでしょうか。「四KプラスROY」の敬神生活で、毎日毎日が、穏やかで良い日でありますように、お祈り申し上げます。



四KプラスROYの敬神生活で、  
日々是好日の日々を

宮司 柴田 宜夫

# 令和三年二月二日(火) 節分祭追儺式のお知らせ

★新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、規模縮小に伴い、豆まき餅まきは中止します。福引大会・ぜんざい・お神酒の振る舞い・露店の神賑行事も中止します。時勢を鑑み苦渋の決断ですが、ご理解ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

- 節分祭追儺式(神事)並びに新型コロナウイルス感染症収束祈願祭は、総代及び関係者のみにて従前通り午後五時四十五分開式にて執行します。
- 厄祓も終日受け付けます。(予約不要)
- 福豆は終日頒布します。
- 限定ご朱印紙は頒布します。
- 恵方巻は感染対策を徹底し有志にて販売します。

## 八幡様の知恵袋 節分の日付

皆様にはなじみ深い日付として二月三日の認識があるかも知れませんが、実際には節分は年に四度あります。季節の移り変わりをより適確に掴む為に設けられたとして各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日が季節を分ける意味で全て節分にあたります。

今年の立春前日の節分は二月二日ですが、実に明治三十年以来三十四年ぶりの二月二日です。過去には昭和五十九年の二月四日節分と必ずしも二月三日に限りません。殊更、今年以降は閏年の翌年が節分になることを留意しておきましょう。

※151号~161号(要点抜粋)を総集編としてお届けします。  
全文ご覧になりたい方は八幡宮ホームページへアクセスしてください。

# 字司プレス総集編



### 第一五一号(令和二年一月十二日)

令和二年の干支は、全部で六十通りある組み合わせの三十七番目の「庚子」です。三十七番目ということは、四で割ると二余りしますので、この庚子の年は、必ず、閏年となります。「庚」は、「こう」と読み、杵で臼をついてる姿をあらわしています。そのことから、「改まる、変わる、つながる」という意味です。だからといって、「革命」などという過激な意味合いではなく、「進化」を意味しているのだそうです。千利休さんの道歌に、

「稽古とは 一より習い 十を知り 十よりかえる 元その二」と詠まれています。振りかえりつつ、悪いところを改めながら、前向きに進んでいく、まさしく、「進化」なのです。「子」は「孳(じ)」を語源として多産を意味しています。動物では、ネズミが当てられています。経済の干支格言では、「ネズミは繁栄」と言われるように、「ネズミ算」のように子孫繁栄を願ってまいりました。古事記や日本書紀には、ネズミにかかわるお話が記されています。特に有名なのが、大國主命が、ネズミに助けられたお話です。大國主命の神使は、ネズミとされ、「大黒様」として描かれているその姿も、打ち出の小槌をもたれさらに、米俵と白いネズミを伴っていらつやいます。まさしく、穏やかな日々の暮らしの象徴といえるでしょう。

### 第一五二号(令和二年二月十二日)

過日齋行させていただいた春の祈年祭に始まり、秋の稔りを祝い感謝する大祭である「新嘗祭」を目標に、年間を通じて多くの「祭」が齋行されます。一つのサイクルが、まさに、「一年」と言えるのでありましょう。そして、実は、「年」は、「稲 お米」のことでもあります。稲の豊作、さらに、五穀豊穡、「稔り」を祈るのです。「稔」も「ねん」と読みますから、この「祈年祭」として「いのまつり」は、とても大事な神事なのであります。

### 第一五三号(令和二年三月十九日)

明日は、春のお彼岸の中日で昼と夜の時間が同じであります。日光の象徴である天照大御神様が、つかさどられる昼と、月の光の象徴である月読命様がつかさどられる夜の時間が同じということになるわけです。暦の上でも大変重要な節目でもあります。格別の御利益がありそうな神秘的な日でもあります。この春分の日には、国民の祝日ですが、古も、「日忌み」といって、お仕事を休みにしていました。また、「日のお伴」といって、日の出から日没まで、お日様と二緒に終日歩くと健康によいとされてきました。いまでいうところの「セラピー」なのでしょう。「世界はもうデジタル・イズ・エブリウェア(すべてのものがデジタル)になつている」と言われている現在社会であればこそ、目に見えない大きなもの、大自然の恵みによって、生かされて生きていることを体感できる日ではないかとも思います。

当宮の正面鳥居は、紀元二千六百年記念に建立されたものですが、鳥居の右の柱には、「日光照万民」、さらに、左の柱には、「月色清人心」と刻まれています。その鳥居の柱に刻まれた言の葉に、寺田寅彦さんの仰る、「正しく恐れる」心掛けが示されていると思います。それは、私共の御先祖様が大切にしてくられた、「朝に祈り 夕べに感謝」という、「敬神生活」の心掛けにほかなりません。それがまさに、イアン・プレマー氏のアドバイスである、「落ち着いて日常生活を続ける」ことではないでしょうか。

月次祭齋行の過日の十五日に、「感染症流行鎮静祈願祭」も併せて執行しました。さらに、翌日の十六日からは、御日供祭の祝詞に引き続き、「鎮静祈願祭」の祝詞も奏上し、祈願申し上げています。一日も早い鎮静、「ピークアウト」を願うものです。

第一五四号(令和二年四月十九日)

孔子の説いた道徳の理想でもあり、人の理想の姿の別名ともいふべき「仁」になるためには、四つの心が必要だ。「克己」と「恕」さらに、「忠」「信」です。「克己」は、我意、わがまま自分勝手な気持ちを抑えることです。「恕」は、自分がされて嫌なことを決して他人にしないこと、思いやり優しい、慈しみあふれる心です。「忠」は、他人を欺かないこと。「信」は、他人を欺かないように自分も偽らないことです。そう考えますと、「仁」という人間の理想に近づく四つの心の実践は、至難の業といえるでしょう。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、終息のきざしどころか拡大を続けています。歴史を振り返ると、感染症の拡大は、戦争とバブル経済の崩壊に並ぶ、世界経済の三大リスクなのだそうです。がん研究の第一人者は、「人類が二十一世紀中にがんを克服できる可能性は大きい。しかし感染症との闘いは永遠に続くだろう」と述べられています。緊急事態宣言が出されている今、人間の理想の姿になるために至難の業である四つの心を実践すべき時ではないでしょうか。自粛は、「克己」であり、自分と同じように大切な人の命を守る、思いやりの心と行動が、「恕」であり「忠」であります。そしてなにより、慎み深い生活を心掛ける「信」ではないでしょうか。その「忠」と「信」「義」でもあります。「徳をおもいて怠らず それ敵すべけんや」季節の移ろいにこめられた「仁義」こそが、人間の理想の姿、道徳の理想であることに思いを馳せつつ、大いなる徳こそが無敵であることを信じて、落ち着いた日常生活を送りたいものです。御自愛ください。

第一五五号(令和二年五月二十五日)

西暦七百二十年に定められた「養老令」という法律には、毎月に行う祭典が記載されています。三月には、「鎮花祭」として行われます。実は、疫病は花びらが散って、もたらされると考えられていました。疫病退散防止の祈願祭だったので、今は、新型コロナウイルス感染症拡大の世相であります。

本県でも「非常事態宣言」が、解除されたとはいえ、予断(よだん)を許さない状況です。「神のすがたを見つければよ、つつしみ深い生活を心掛けなければなりません。明日にも、全国で解除されそうではありません。これは、ひとえに、国や地方自治体の要請に、国民全ての人が協力し、落ち着いて生活をされた成果であります。まさに、日本人の「オプリージュ」が、遺憾(いかん)なく発揮された賜物と思います。「オプリージュ」とは、感謝の心・公德心という意味です。

紀元前六世紀、中国春秋時代の鄭の国の宰相で、中国最初の成文法を作ったとされる子産は、「礼とは、天の経、地の義、民の行である」と説きました。経とは、もともと織物のたて糸のことで、このたて糸があつてはじめて布ができるわけです。したがって、人生を織る場合、経とは生き方の規範になるもので、その規範を天に求めよということ、みじかく、「天の経」と説いたのです。義もやはり規範を意味しますので、「地の義」とは、道徳倫理です。民は天に学び、地にならつたことを実行してゆく、それが、「民の行」であります。「天の経 地の義 民の行」、日本人のオプリージュです。そのような地域社会になりますよう、これからも、三つの奉仕を大切におつとめしてまいります。御自愛ください。

第一五六号(令和二年六月三十日)

今のように、文明が進歩していない頃、身のまわりにおこる、ごくわずかな不幸な出来事や病氣や怪我は、罪や穢れからもたらされると考えられていました。その罪や穢れを祓って、まさに、「日々是好日」、「今日が、本当に良い日」でありますようにと、ささやかながらも、つましい日常を願ったのです。願いが叶ったこと、叶わなかったことがあろうとも、折り合いをつけて、軌道の修正をはかりつつ、前向きに人生を楽しむという敬神生活にほかなりません。「日清日新日進」、日々清々しく、新たな気持ちで、前向きに歩むということではないでしょうか。

吉田兼好が記した徒然草の第二百二十三段には、人間生活の基本条件が述べられています。「第一に食ふ物、第二に着る物、第三に居る所なり」、さらに、「薬を加へて、四つの事、求め得ざるを貧しとす。この四つ欠けざるを富めりとす。この四つの外を求め営むを奢りとす。」と記されています。衣食住と薬があれば、充分であり、それ以上望むのは贅沢であると説いているのです。そして「四つの事儉約ならば、誰の人も足らずとせん」、衣食住と薬が、つましいながら足りていけば、人間生活の基本条件を満たしていると論じているのです。

正岡子規さんは、「病牀六尺」に「悟り」という事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思つていたのは間違いで、悟りという事は如何なる場合にも平気で生きています事であつた」と書かれています。私共、コロナ禍、まさに、不幸な出来事に見舞われています。しかしながら、徒然草に書かれてあるように四つの事儉約でありますので、「日々是好日」、「日清日新日進」の敬神生活を持ち続け、平気で生きていきたいものです。

第一五七号(令和二年七月十七日)

私共の祭典奉仕の絶対条件は、清浄、祓いです。神社神道は、何よりも清浄を尊びます。祓というのには、「晴る晴れる」という意味があります。また、「張る」という意味があります。常日頃は、気持ちよく爽やかに、そして、果たすべき役割を担った時には、緊張し自覚し覚悟をもつて事にあたる、これが、「祓」に込められた意味ではないかと思うのです。

天武天皇様は、「明浄正直勤務追進」と仰せになり諭されました。明るく澄み切った清らかな心、公明正大な嘘をつかない正しい心、どんなことがあつても「ブレない」強い心、これが、「明浄正直」です。そして、自分のことは自分でやりとげ、世のため人のために尽くす、これが、「勤務」です。さらに、競争に遅れず、人との競いは常に先頭をひたすら走り続ける、これが、「追進」なのです。常日頃の心掛けと社会生活の目標を示されているのです。

中世室町時代に「能」を大衆芸能から「芸術」に高め、昇華させたのが観阿弥世阿弥親子であります。その世阿弥が著した「風姿花伝書」には、「秘すれば花 秘せずは花なかるべし」と書かれています。美しいものには言葉はいらない、言葉で多くを語り着飾つたところで本物ではない、「秘めた多言」と仰いました。詩人の相田みつをの詩に、「美しいものを美しいといえるあなたの心が美しい」とあります。神社神道で大切にしているのは、「真善美」ですが、なかでも「美」をもっとも尊重しています。あらゆるものに神様が宿っていらつしやると考え、神様をお祭りするのは、「美」を尊ぶからにはかたがたありません。

今の世相でも、「晴れる、張る」、「明浄正直勤務追進」を生活の目当てにして、御多幸な暮らしでありますように。

第一五八号(令和二年八月九日)

近代日本の思想に大きな影響を及ぼされた、「善の研究」の著者でもある哲学者の西田幾多郎先生は、「見えるものは見えざるものの影」とおっしゃいました。水道管やガス管、ライフラインも、地下深く埋められています。コロナウイルス禍になる前の当たり前の日常が、本当に尊いものだと思えてなりません。古語では、光の事を「かげ」と読ませました。光をあてられているからこそ陰ができるわけで、実は、私どもの「ピフォークロナ」の何気ない日常は、見えざるものの影である、「お光様」だったのです。

実は、見えない大切なものは、「しん」と読むことができます。前述のとおり、「見えざるものの影 お光様」である「神」。私共は、親から命のバトンを受け継いでいますが、命の別名でもあり、過去を意味する「親」。そして、なにより今を生かされる「身」。さらに、苦難を乗り越え未来を切り開いて行かなくてはなりません、未来を意味する「新」。人と人のつながりを大切に作りあげていく信頼という「信」。その信頼を積み重ねて、目に見えない本物である、「真」の姿に近づくと、「真」であります。「神親身新信真」で、すべて、「しん」と読めるのです。

今ある命は、「神」「親」に心から感謝し、自分自身である「身」を謙虚に見つめ直し、未来である「新」に希望を持ち続け、工夫をしながら「信」「真」に近づく生活をする。「感謝 謙虚 希望 工夫の四K」です。そして、利他 思いやりの心で、落ち着いてゆとりを持って、生活をする「利他 R」落ち着き O「ゆとり Y」の「ROY」です。「四KプラスROY」の新しい敬神生活で、「日々是好日」、毎日毎日が、おだやかで良い日でありますように。

第一五九号(令和二年九月十五日)

新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に国境を越え、経済、産業、安全保障に様々な負の影響を及ぼす、インパクトを与える、まさにその感染症の恐怖というものを思い知らされています。総合研究大学院の長谷川大学長は、「感染症は都市化の代償」と仰っています。ホモ・サピエンスが進化してから二十万〜三十万年がたち、百万人が住むような大都市が出てきたのはせいぜい数百年にすぎないそうです。現在、世界人口の七十八億人のうち都市に住む人は五十パーセントを超すそうでありまして、そのことを長谷川大学長は、人類史的にみて異常な状況であると仰っています。都市化が進み生活は便利になる反面、つながりの希薄さや脆弱性が露呈しています。しかも、コロナ禍によって世界中至るところで、多くのことが不安定しかも不確実を増しています。そういう時であればこそ、「変わる物」、「変わらない物」、「変えるべき物」、「決して変えてはならない物」の見極めが大切になってくるのではないのでしょうか。

英国のジョンソン首相は、陽性がわかった三月末、国民に向けたメッセージで、「コロナ危機で明らかになったことを一つ挙げるといふならば、社会なるものが確かに存在しているということだ」と語られました。実は、村人が一年に一度、神社に集まり村の大事な取り決めを行うというのが、「社会」の語源です。したがって、沢山の方々が神社に集う「まほろば」、素晴らしい場所にするとというのが「社会」の語源に近づく神社運営ではないかと思えます。当たり前の神事行事を齎行することが困難となりました。しかしながら、感染症により不易を浸食されないう、変えてはならない「物」、変えられないよう、「決して変えてはならない」神事の厳修につとめて参ります。

第一六〇号(令和二年九月三十日)

一年で二番目に美しいとされる「お月見」、何という月で、いつ見ることが出来るかご存知ですか。もちろん、一番美しいとされる月は、「仲秋の名月」で、旧暦の八月十五日で、今年が明日の十月一日です。一年で二番目に美しいとされる月は、「十三夜月」で、旧暦の九月十三日、今年、十月二十九日です。昔から、この両方の月を見て、愛でないと「片見月」といつて縁起が悪かったそうです。「仲秋の名月」は、音楽を奏で、宴を催す宮廷貴族の年中行事でした。それに対して、「十三夜月」は、月に宿るとされた水の神様に、里芋や果物等をお供えし、感謝する、庶民の信仰の行事でした。その感謝を捧げる行事の、「十三夜月」を忘れないために、「片見月」といつたのだそうです。

当宮の正面鳥居の左の柱には、「月色清人心」と刻まれています。来月の仲秋の名月と十三夜月を愛でられ、「片手落ち」ならぬ「片見月」になりませぬよう、どうぞその美しい月の光で、不安や恐怖の心が、清められます。「処方箋」となりますことをお祈り申し上げます。

進化生物学者の長谷川眞理子先生は、「人は本来、助け合う生き物として進化してきた」と述べられ、さらに、「なぜ人においてこれほど利他的な行動が進化したのか、それは、人に《心》があったからだ」と主張されています。人の身体が、進化によって適応的につくられたように、人の心も、また、進化したのだそうです。心が清まれば、心が進化すれば、不安や恐怖を受け入れていくなかで、柔らかに適応していけるのではないのでしょうか。「月色清人心」、癒され、和み、安らぎつつ、いつも清らかな心で過ごしたいものです。ご自愛をお祈り申し上げます。

第一六一号(令和二年十月二十九日)

明治時代の神道家である本田親徳は、「産土百首」の中で、「音に聞き 眼に見える物等 悉に 産土神の 御身にこそあれ」と、詠まれています。今、身の回りに起きている出来事は、すべて、神様のお姿なのだ、この世になにひとつも人の力の及ばないことばかり、恐れつつしむことの大切さを説いています。そのように、謙虚に自分を見つめ直す瞬間が、年毎の例大祭なのではないのでしょうか。

◇さて、世界は、人口爆発に始まり、経済のグローバル化、産業技術の発展に世界が追いつかず、さらに、気候変動や環境劣化、経済格差の深刻化がすすんでいます。世界の知識人は、「現代は終わりの始まり」と心配しています。NPO法人日本を美しくする会の創唱者で相談役の鍵山秀三郎さんは、「日本はいま、物質的な豊かさの中で、かつてないほど人心が荒廃している」と警鐘を鳴らしておられます。確かに、戦後豊かになるにつれて、大切な日本の伝統文化歴史を置き忘れて、地位や名譽、お金ばかりを追い求めてきたのではないのでしょうか。それは、戦後の大復興が、「幸せは物が豊かになること」が、大目標であった負の産物でもあります。千利休は、導歌に、「稽古とは 一よりならい 十をしり 十よりかえる もとのその一」と、論されています。神社神道は、「よみがえり、生まれかわり」を大切に、さらに、その思いを繰返し繰返し、積み重ねてまいりました。そのことが、「もとほる」、「元に戻る」という営みにほかなりません。世界も日本も「終わりの始まり」になるのではなく、「よみがえり、生まれかわり、もとほる」の始まりになるよう、謙虚に振り返る、「もとのその一」になる瞬間である、日々月毎折節の祭典の厳修を心掛けたいものです。

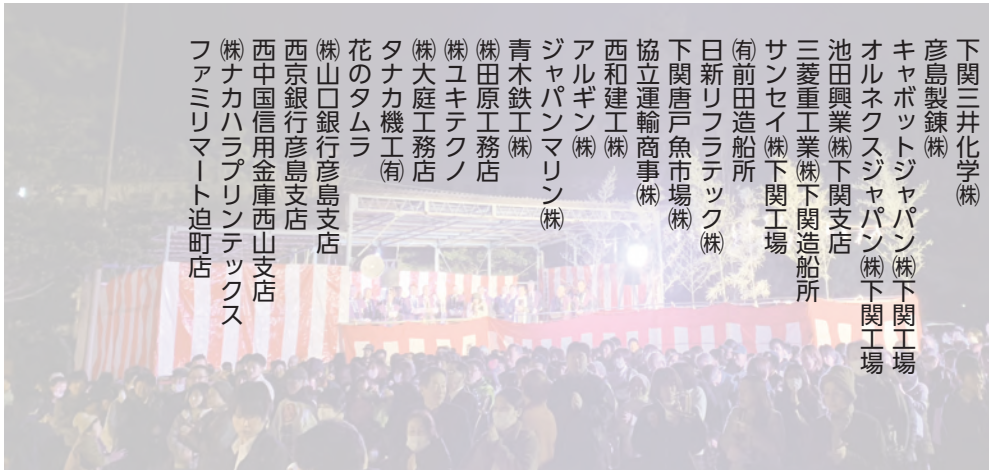
令和二年  
**大々式奉納者ご芳名**  
 岡本 仁志

令和二年  
**新年御供米料**  
**奉献会社ご芳名**  
(※順不同、敬称略)

- (株)中冷
- 農水フーズ(株)
- (株)大伸運輸
- 山口県漁業協同組合彦島支店
- 山口県漁業協同組合下関南風泊支店
- (株)副田工務所
- (有)フジタ石油
- チヨダウーテ(株)下関工場
- (有)上釜電機商会
- 桃歳水産(株)
- 香洋工業(株)
- 大田造船(株)
- (有)岩原クリーニング工業所
- (有)枝村ドラム工業所
- 古賀産業(株)
- (株)室田組
- (株)サントー
- (有)平田工業所
- 和田電機(株)
- 大久保本店
- (有)百合野
- 山口整形外科
- 下関酒造(株)
- (有)三宅商店
- ティーラーしばた
- (株)下関ユアサ建材
- 関門三協工業(株)
- (有)南国シテイタクシー
- (有)ライス&ミルク上村
- みなと不動産
- 高保工業(株)
- (株)共立機械製作所下関工場
- (有)植田商会
- (株)広洋エレクトリック
- (株)原工務店
- 三池屋

令和二年二月三日  
**節分祭**  
**御協賛会社御芳名**  
(※順不同、敬称略)

- 【設置協賛の部】**
- ▼舞台花道設置  
 (株)瀬戸工業
  - ▼照明設備  
 (有)タツミ電工
- 【協賛金の部】**
- 下関三井化学(株)
  - 彦島製錬(株)
  - キャボットジャパン(株)下関工場
  - オルネクスジャパン(株)下関工場
  - 池田興業(株)下関支店
  - 三菱重工業(株)下関造船所
  - サンセイ(株)下関工場
  - (有)前田造船所
  - 日新リフラテック(株)
  - 下関唐戸魚市場(株)
  - 協立運輸商事(株)
  - 西和建工(株)
  - アルギン(株)
  - ジャパンマリン(株)
  - 青木鉄工(株)
  - (株)田原工務店
  - (株)ユキテクノ
  - (株)大庭工務店
  - タナカ機工(有)
  - 花のタムラ
  - (株)山口銀行彦島支店
  - 西京銀行彦島支店
  - 西中国信用金庫西山支店
  - (株)ナカハラプリンテックス
  - ファミリマート迫町店

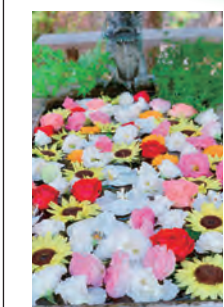


はなてみず  
**花手水 開催のご報告**

昨夏、当宮初の取り組みとして**花手水**を通算七度開催致しました。近年新しい日本の風習として定着しつつある「夏詣」の一環として、コロナ禍で祭祀行事が中止や縮小を余儀なくされた時勢に少しでも参拝者に明るく前向きな希望を抱いていただきたく満を持して開催致しました。インスタグラムなどのSNSを通して「涼を感じた：」「爽やかな気分になれた：」等々、想像以上に反響が多く、各テレビ局や新聞社から取材もありました。



\*花手水：  
 神道では、古来水がない場合に花や草木についた露で手水として清めの儀式を行っていました。又、雪を用いた雪手水の場合もありました。



公式Instagramを  
 始めました!



是非フォローして、  
 #彦島八幡宮など、  
 #ハッシュタグ)を  
 付けて多くの投稿を  
 お願いします!!





令和二年  
六連島ニ祭り紀行  
フォトメッセンジャー  
中野 英治

昨年は、新型コロナウイルスの関係で彦島八幡宮の祭事は中止もしくは縮小となったが、六連島八幡宮の伝統祭事「夏越祭」と「秋季例大祭」を見学させていただく機会に恵まれたので寄稿します。

【夏越祭 七月二十五日(土)】

竹崎港十時発便に乗船。目黒一彦宮総代長の出迎を受け、歴史を感じる石積の階段を上り六連島八幡宮に到着。御神前には、お神酒・米、地元で採れた新鮮野菜が供えられ、神事の準備に入る。

柴田宜夫宮司が玉串(人形の紙に結んだカヤを差し込む)を作り、山本光徳権禰宜が茅の輪を組み立てた。四人の宮総代が参加して神事が始まり、茅の輪を潜って玉串を奉奠し、最後にお供えのお神酒と生米を一掴まみいだいた。戸別祓いは、二手に分かれて約三十軒の家を回った。神棚と仏壇を配した各家は、塩水と笹(又は南天の葉)を用意して宮司を迎えた。一軒一軒、ご家族の健康を気遣いながら丁寧挨拶を交わす柴田宮司。永年の戸別祓いで心通わせた深い信頼関係を感じた。茅の輪は、鳥居に結び付けられ漁村センターからよく見えた。島の人々はこの茅の輪を潜って無病息災を祈る。昔は、牛を潮で洗って清めていたそうだ。



夏越祭、「茅の輪くぐり(上)」と「戸別祓い(下)」の様子。



【秋季例大祭 十月四日(日)〜五日(月)】

四日の前夜祭は、戸別祓いと湯立神事がある。島到着一番に、当元の高山宏様宅玄関に飾った注連縄に紙垂がつけられた。関係者との打合せを済ませ、二十九軒の戸別祓いを終えたのは十四時頃。

当元家にて、その日島で採れたサザエやヒラメなど心のこもった昼食を御馳走になり、玉串や御幣の製作に入った。夕刻になると、境内に参列者が笹を持ち、神社奥の釜付近に古い御札や御守類が持ち込まれた。約六十名が参列して、十八時三十分より前夜祭(湯立神事)が始まった。神事後釜に火が入り、柴田宜夫宮司が人形と御幣を釜に入れてかき混ぜ、湯を汲み取った。その御水(ごすい)は、神様に供えられた。参列者全員が、御神酒・甘酒・御水・生米をいただき持ち寄った笹で湯の雫を浴びて無病息災を祈願した。五日は、本殿祭と御神幸祭である。お下りは、当元・太鼓方を先頭に十一人で

担ぐ神輿が浜に向かった。御旅所での神事を無事終え八幡宮に神輿が納められたのは十二時を過ぎていた。帰省した若者達がいるうちにと手際よく幟が収められた。六連島初奉仕となった柴田明典権禰宜の堂々たる御姿と島独特のしめ縄の形や供え物の「かけ鯛(雄雌一体)」が印象深かった。



秋季例大祭、「湯立神事(上)」と「御神幸祭(下)」の風景。



【人の心と、生活原風景が残る六連島】

六連島は、日本書紀の仲哀紀に「没利島」として登場する。名前の由来は、十六世紀末に所謂「六軒株」と称される人々が入植され、土地を六つに分けた等諸説ある。島の灯台は、昨年国の重要文化財指定に答申された。国指定天然記念物の雲母玄武岩やウニのアルコール漬け発祥の地など歴史文化財の宝庫で、花のハウス栽培が盛んである。「六連島村落の社会と生活(一九六〇年調べ)」に年中行事二十項目が紹介され、現在もその精神が継承されている。信仰深い島の人々の心と生活原



六連島八幡宮秋季例大祭を終えて記念撮影(上)。国の重要文化財指定に答申された六連島灯台(左上)。ハウスの中は、色彩豊かなガーベラが美しい(左下)。

風景が随所に残り、忙しい現代人が忘れてしまった大切な時と空気感のようなものがとても心地よい。幾度も訪れてみたくなる神と人の島である。



舞役の可知重成氏(左)、58年ぶりの獅子人役を熱く演じた園田貞治氏(右)

コロナ禍の時勢を鑑み、御神幸祭と神賑行事を中止し、総代はじめ少数の関係者のみにて規模縮小の上、工夫しながらご奉仕申し上げます。

御創祀八百六拾壹年  
秋季例大祭 十月十八日(日)  
無形民俗文化財  
『サイ上り神事』<sup>あか</sup>斎行

### 異動報告



権禰宜 柴田 明典

新任のご挨拶  
昨年十月より彦島八幡宮に奉仕することになりました。柴田明典と申します。

私は、三重県伊勢市にありますが皇學館大学で、神職の資格を取り、平成二十六年より島根県松江市にありますが平濱八幡宮という神社に奉職しております。

この地彦島に戻り、自分の生まれ育った神社に奉仕できることを大変嬉しく思うとともに、改めて身の引き締まる思いがいたします。神職としてまだまだ勉強中の身でございますので何かと至らぬ所もあるかと存じますが、少しでも地域に貢献できるよう、勤めてまいります。これからどうぞ宜しくお願い申し上げます。



### 新型コロナウイルス感染症対策について

当宮では、ご参拝の皆様のご安全・ご健康を考慮し、左記の通り対応致しております。  
初詣は二月いっぱいを目途にお参り下さい。三月末日まで午後五時閉門です。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

#### 〔恒例祭典・神賑行事について〕

当面の間、公式ホームページもしくはインスタグラムにて適宜お知らせ致しますので、ご覧下さい。

#### 〔ご祈願(お祓い)について〕

予約は不要です。(※但し、会社企業団体の場合は予約要です)本殿内は常時換気の為、窓・扉を開放し、人数制限を設けています。ご参拝の皆様方も本殿内昇殿の際は、アルコール消毒をし、マスク着用にご協力下さい。体調不良の場合は、ご遠慮願います。冬季ご祈願は防寒対策も重ねてお願い致します。

#### 〔守札授与所・御朱印について〕

職員はアルコール消毒を徹底の上、マスク着用にて対応致します。ご朱印は直筆・書置共に対応します。楼門内各所にはビクトグラム看板やアルコール消毒液を設置しておりますので、ご参照ご利用下さい。

#### 〔神社会館瑞鳳殿の営業について〕

営業を再開しました。会席料理・仕出し弁当オードブル・仕出しお刺身の盛り合わせ・河豚(刺身・鍋)の地方発送等、ご利用下さい。

\*瑞鳳殿連絡先 TEL0833-2333-1986

一日も早い事態の収束鎮静化と、皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。  
変わらぬ祈りのために、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

# 令和3年(辛丑)厄年・年祝表

(年祝)

上寿祝	大正11年生(100歳)	数え年100歳のお祝い。
白寿祝	大正12年生(99歳)	百から上の一を取ると白になり、数で云えば99である。
卒寿祝	昭和7年生(90歳)	卒は略字で卒と書き九十と読む。
米寿祝	昭和9年生(88歳)	米は字をわけると八十八となる。
傘寿祝	昭和17年生(80歳)	傘は略字で傘と書き八十と読む。
喜寿祝	昭和20年生(77歳)	喜は草書で喜と書き七十七と読む。
古稀祝	昭和27年生(70歳)	「人生七十古来稀なり」の漢詩にもとづく。
還暦祝	昭和36年生(61歳)	干支が丁度一巡し、誕生の年と同じになるので本卦返りともいう。

※節分祭(2月3日)までに厄祓をお受けしましょう。

(厄年)

性別	年齢	前厄	本厄	後厄
男	25歳	平成10年生(24歳)とら	平成9年生(25歳)うし	平成8年生(26歳)ねずみ
	42歳	昭和56年生(41歳)とり	昭和55年生(42歳)さる	昭和54年生(43歳)ひつじ
	61歳	昭和37年生(60歳)とら	昭和36年生(61歳)うし	昭和35年生(62歳)ねずみ
女	19歳	平成16年生(18歳)さる	平成15年生(19歳)ひつじ	平成14年生(20歳)うま
	33歳	平成2年生(32歳)うま	昭和64年生(33歳)へび 令和元年生	昭和63年生(34歳)たつ
	37歳	昭和61年生(36歳)とら	昭和60年生(37歳)うし	昭和59年生(38歳)ねずみ

## 八方塞がり

皆様一人一人の生年月日により九つの星“九星”に区分され星回りが存在します。中央を基点に、北、北東、東、南東、南、南西、西、北西の方角をめぐり、九年に一度中央に入ります。これが八つの星(方位)に囲まれた状態である八方塞がりです。不安定な年とされ、より注意をしなければならぬ年です。

八方除けの祈願や方位除けの御守をお受けになられ、御神慮を恐み慎む事をお勧め申し上げます。

本年は**六白金星**の方が該当致します。(※以下に表記)

昭和6年、昭和15年、昭和24年、昭和33年、昭和42年、昭和51年、昭和60年、平成6年、平成15年、平成24年

## 三月金神様の方位

三月金神様の方位への引っ越し、旅行、転勤等々留意しなければなりません。

北	令和2年11月15日～令和3年2月11日	東	令和3年2月12日(旧元日)～令和3年5月11日
南	令和3年5月12日～令和3年8月7日	西	令和3年8月8日～令和3年11月4日

(七五三祝)

髪置祝	平成31年生、令和元年生の男女(3歳)	髪を伸ばし整え始めること。
袴着祝	平成29年生の男子(5歳)	男の子が初めて袴をはき始める年齢。
帯解祝	平成27年生の女子(7歳)	女の子が今までの紐付着物から帯を締める大人の着物に替える年齢。

祈願祭(お祓い)は数え年でお受けしましょう。

「数え年」は、生まれた時点を1歳とし、新年を迎える度に1歳加えて行きます。これは、正月に各家を訪れる年神様から1つ年を頂くというありがたい意味があります。満年齢に誕生日前であれば2歳、誕生日を迎えた後は1歳を加える解釈となります。

## 安産祈願祭・腹帯清祓のご案内 (令和3年の戌の日)

彦島八幡宮は別名『子安八幡』とも称され、安産の神様としても崇められ、県内外よりご参拝いただきます。ご持参頂いた腹帯(マタニティガードル)に当宮の「安産守護」の印を押印させていただきます。



1月 2日(土) 大安	4月 8日(木) 仏滅	7月 1日(木) 友引	10月 5日(火) 赤口
14日(木) 先勝	20日(火) 大安	13日(火) 先負	17日(日) 例祭 友引
26日(火) 先勝	5月 2日(日) 大安	25日(日) 先負	29日(金) 友引
2月 7日(日) 先勝	14日(金) 赤口	8月 6日(金) 先負	11月10日(水) 先負
19日(金) 友引	26日(水) 赤口	18日(水) 大安	22日(月) 先負
3月 3日(水) 友引	6月 7日(月) 赤口	30日(月) 大安	12月 4日(土) 大安
15日(月) 仏滅	19日(土) 友引	9月 11日(土) 赤口	16日(木) 大安
27日(土) 仏滅		23日(木) 秋分 赤口	28日(火) 大安

★お子様の命名書、宮司が浄書致します。お気軽に社務所迄お申し出ください。授与された命名の掛け軸をご持参下さい。お持ちでない方も、半紙や色紙等に謹筆致します。

発行所 彦島八幡宮社務所  
 〒830-0831 下関市彦島迫町五丁目十二番九号  
 FAX 083-2266159  
 ホームページ <http://www.hkoshima-gunet>

編集者 山柴 徳夫  
 発行者 山柴 徳夫  
 印刷・株ナカハラプリンテックス  
 令和三年一月一日